

■文化芸術活動に関するインタビュー調査

市内の文化芸術活動に関わる団体や個人を対象に、川口市が目指すべき美術館像等について調査を行った。なお、調査に際しては、各調査対象の活動内容等を踏まえたグループを設定し、グループごとにインタビュー調査を実施した。

(1) 調査概要

グループごとの調査概要は以下の通りである。

■調査概要

グループ	調査概要
A. 川口市美術家協会	日時： 2018年6月19日(火) 15:00～16:00 実施場所： 川口市立アートギャラリー・アトリア 調査対象者： 川口市美術家協会会員 7名
B. 専門性の高い活動を行う個人・団体	日時： 2018年7月17日(火) 14:00～15:30 実施場所： 旧芝園中学校会議室 調査対象者： アーティスト支援団体等 5名
C. 市民向けの活動を行う団体	日時： 2018年7月25日(水) 10:00～12:00 実施場所： 青木会館5階 会議室 調査対象： 造形教室運営者、福祉施設運営者等 7名

(2) 調査結果

各グループの調査結果を以下に記す。

①グループ A 川口市美術家協会

団体概要	
主な創作分野	日本画、洋画、彫塑、工芸、書、写真
会員数	318名
主な活動地域	—
主な作品発表の場	アートギャラリー・アトリア、川口総合文化センター・リリア
作品発表の頻度	年に1回程度(川口市美術家協会選抜展)
他団体等との連携・協力	文化芸術団体等と連携・協力している
連携・協力内容	・他団体での作品例会等を行っている。 ・川口市、川口市教育委員会と連携し「川口市美術展」を開催している。
現在の活動における課題	
・市内で発表等を行うギャラリーが少ない。	

川口市にふさわしい美術館のイメージ

○事業活動に関する意見

<地域文化を生かした取り組み>

- ・釣竿や植木、鋳物、鍛冶など、川口の文化を生かしてはどうか。
- ・鋳物や植木など川口ならではの文化を守り、継承している人たちとともに、専門的な技術や文化を後世に伝えることが必要である。

<ジャンルにとらわれず、バラエティ豊かな取り組み>

- ・「川口市美術展」と「川口市美術家協会選抜展」があり、市内で活動する作家のほとんどは、すでに発表の機会がある。新しい美術館では美術作品の展示に限定せず、凧や雛人形など時節にちなんだ展示を行うなど、子どもから大人まで楽しめるような取り組みが必要である。また、子どものころから美術館に親しむことで、将来、親となって子どもを連れてくるのではないか。
- ・博物館と美術館の間のようなバラエティ豊かな取り組みを行う場が、中央図書館のように便利な場所にあると、子どもから大人まで親しむことができる。

<子どもの育成につながる取り組み>

- ・学校教育において美術教育がおざなりになっているように思う。その部分を美術館が補完するような取り組みを行うと、人材育成につながるほか、そもそもの美術館整備の目的にもなるのではないか。
- ・世代を越えた利用や、将来の担い手を育むような場が望ましい。
- ・(現代の)美術はジャンルを超えた変革の時代にある。その中では伝統的な文化にふれることも重要である。また、美術体験は子どもの情操教育に重要であることから、子どもたちの興味関心を引くような取り組みと、子どもたちを連れてくる大人の関心を引く事業の展開が必要である。
- ・子どもの頃に親に連れられて美術館に親しむ体験は、その後の人生に大きな影響を与えるので、子どもが多く訪れるような美術館であることが重要である。

<芸術家の育成や発掘につながる取り組み>

- ・新しい創造性の感じられる作品の展示。
- ・川口市の施設を使って個展を開催できる抽選会を催すと、市内の作家の意欲も高まるのではないか。
- ・若手の登竜門的な美術館となるとよい。
- ・作家にとり、川口の美術館で展示されことで活躍の場が広がるような施設となるとよい。
- ・将来有望な作家を発掘するような場となるとよい。
- ・著名な作家の作品よりも、無名でも才能豊かな若手を見出すような展示を行うと、ベテラン作家にとっても刺激になる。また、企画展のための作品を貸し借りする費用も抑えることができるのではないか。

<働き世代が参加しやすい創作活動>

- ・働き世代でも創作活動に参加しやすい場となるとよいのではないか。

<外国人観光客の来館促進につながる取り組み>

- ・最近、賑わっている美術館では外国人観光客が多く訪れている。
- ・近年は海外からの来訪者が多く、特に書は人気が高いのではないか。

<福祉分野との連携による取り組み>

- ・アートセラピーのように福祉分野と連携した取り組みを行うなど、多様な人々が訪れる施設であるとよい。また、そのための専門家を置くことも必要である。

<その他>

- ・多くの美術館が入館料収入で運営費を賄うことはできない状況を踏まえると、運営費を抑えながら利用促進につながる施設像を検討すべきである。
- ・来館者のターゲットをある程度絞り、どのような体験を提供するか検討すると特徴的な施設となるのではないか。
- ・最近の美術館・博物館では集客目的での企画展が多く、経済的効果を追い求めず

ぎているように思う。ジャンルを越えた創作活動が行われる現代では、それらを横断的に理解できる専門家が必要で、担い手を育てる指導機関や、それらを展開する施設が望ましいという現状を踏まえると、川口市において何が求められているのかを検証し、(本当の意味での) 集客につながるような施設とすべきである。

○施設整備に関する意見

<利用促進につながる特徴的な施設>

- ・美術館を含めた環境(周辺)を感じる。
- ・北陸地方のとある美術館では、ユニークな概観が集客につながっているという。美術館は人々を魅了するような外観も必要である。
- ・川口市は、上野や六本木など近距離に多くの美術館があるため、例えばダリの「卵の家」のように、子どもの興味を引くような外観であるとよい。
- ・作家のアトリア再現や、いつ訪れても緑に溢れているなど、環境も含めて人々を魅了する工夫が必要である。
- ・林に囲まれ、池もあり、閑静な場所に整備するというのが理想ではある。ただ、小規模でも魅力的な施設であることが重要である。

<至便な場所への整備>

- ・川口総合文化センター・リアは北浦和の埼玉県立近代美術館よりもアクセスがよく、「川口市美術展」の来場促進にもつながっている。
- ・環境という点ではグリーンセンターに整備するのがよいが、交通の便が悪い。SKIPシティもアクセスが良いとは言えない。

<施設機能に関する意見>

- ・ゆったりとくつろげる空間が必要である。
- ・(川口市美術家協会の) 6部すべてがワンフロアで展示できるような広さがあるとよい。
- ・バリアフリー対策を行い、障害のある方々も率先して観に来ていただけるような環境整備が必要である。
- ・写真の展示に適した照明を設置してほしい。
- ・調整しやすい照明設備を備えてほしい。
- ・温湿度管理が可能な空調設備を備えた施設としてほしい。
- ・写真の展示には適した天井を備えてほしい。
- ・子どもたちの利用促進につながる環境の整備とともに、本物を展示できることも重要である。
- ・若い方々を集めたワークショップを開き、将来の美術家を育てるとなると、それに適した施設を備える必要がある。

<その他施設整備に関する意見>

- ・サグラダ・ファミリアのように、徐々に整備されていくというのも個性的があってよいのではないか。

○その他の意見

<アトリアと美術館との関係>

- ・アトリアではワークショップを中心に展開するなど、新しい美術館と機能や役割を分担し、連携しながら事業展開するとよい。

<館長や学芸員の配置の重要性>

- ・資料の貸し借りに対応できる学芸員の配置が必要である。
- ・所蔵品の貸し借りなど、近隣の美術館との連携が必要となる。そのためには、学芸員や館長の存在が重要である。
- ・美術の歴史や用語について理解することも重要であり、正しく伝えることのできる学芸員の配置が必要である。

<施設貸出に関する意見>

- ・アトリアは利用料金が高い。川口市内の作家でも、より安価な県立美術館の一般展示室を利用する方もいる。

<ul style="list-style-type: none"> ・市内で創作活動を行う立場からすると、手軽に展示できるギャラリーのような施設を増やしてほしい。市内ではギャラリー施設が少なく、また、アトリアは1日の利用料が約1万円と高額で、気軽に借りることができない。手軽に利用でき、作品発表に適した質の良い空間を、美術館整備とあわせて検討してほしい。 <p><情報発信に関する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に美術館の活動を積極的に発信することが必要である。アリオに来てアトリアを知らない人もいるのが現状であり、これまで以上に情報発信していくことが重要である。
<p>新たな美術館との連携・協力</p>
<p>○連携・協力の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力は出来ると思う。新たな展示の場が出来る事によって意識が高まります。 ・現状では活動の場が限られているため、美術館ができることで我々の意識も高まると思う。 <p>○連携・協力に向けて整備すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「川口市美術家協会選抜展」は、アトリア開設時に市の要望を受けて企画された。運営審議委員に美術家協会からも選任するなど、学芸員と地域の作家たちとが意見交換する場を設けると、連携・協力が可能となり、新たな取り組みも展開しやすくなるのではないかと。
<p>市内の美術活動発展に向けた意見</p>
<p>○美術活動への理解者や後継者の育成が重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術活動に対しての意識の積み重ねを行う。 ・市民も芸術家も育てる必要がある。 ・後継者不足は「川口市美術展」の出品点数の減少に如実に表れている。 ・後継者不足は「埼玉県美術展覧会」も同様の問題として起きている。 ・書の世界では美術系の大学を出て活動する作家はごくわずかであり、結婚後も継続できるとは限らない。我々の時代は子育てをしながら創作活動を継続することができたが、現代では余裕がないのだと思う。参加して欲しい年代の参加が得られない状況にある。 ・40代、50代の参加が少なく、将来の担い手を育てる場が必要である。
<p>その他</p>
<p>○アトリアについての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アトリアが出来た当初から、印象が暗いという意見を聞く。 ・アトリアは内装や外装の工夫や、天井が高いなど、良い施設であると思う。だからこそ、積極的に宣伝すべきである。 <p>○川口ならではの文化の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川口の鋳物や安行の植木など、生産拠点は市外に移転しているが事業としては市内で継続している。 ・川口の文化的特徴は非常に捉えにくいように思う。 <p>○検討の進め方に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館整備に関するアンケート調査は、子どもたちに対しても行っているのか。 ・美術館の運営にはお金がかかるのではないかと。美術館の運営に利用できる市の予算規模次第で、出来ること出来ないことが決まってくるのではないかと。 ・検討の進展に合わせて色々意見も出てくると思うので、意見聴取の場を適宜設けてほしい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館整備の話がある一方で、「川口市美術展」の予算は削られているように思う。

②グループ B 専門性の高い活動を行う個人・団体

川口市にふさわしい美術館のイメージ

○美術館像

<市民の誇りとなる施設>

- ・川口が個性ある街と認知される様な、他にはない魅力を放つ、市民が誇れる施設にすべきだ。

<作家が集まる施設>

- ・首都圏の玄関口として、作家が集まりやすい地域である。美術館では作品発表の場や、作品を発信する機能を備えると、さらに作家が集まりやすくなる。
- ・若手が活躍できる場を提供してほしい。
- ・作家が意見を述べられる施設というのも新しい視点となる。
- ・機材を求めてアプライスでわざわざ創作活動を行っている作家もおり、創作活動に必要な機材や場所を備えていることは、作家が集まる要因となる。多くの作家は、日中働いており、夜間に創作活動を行っているので、アプライスのように、音を気にせず、夜間でも利用できる場所は貴重である。

<子どもたちが美術に親しむ施設>

- ・子育て世代へ向けた取り組みも重要ではないか。
- ・未就学児を育てる立場からは、市内に未就学児向けの企画が少ない印象がある。積極的に情報発信するなどしてくれると、参加しやすくなるのではないか。また、鑑賞マナーを教えてくれるような工夫があると、安心して子どもを美術館に連れて行くことができる。
- ・子どもの城のような、子どもの創造力を育むような自由な活動ができる施設機能があると、美術館のファンも増えるのではないか。
- ・国立科学博物館のコンパスには、アスレチックのような施設もあり、子どもが楽しむための工夫がされている。

<幅広い年齢層に親しまれる施設>

- ・これまでのアートギャラリー・アトリアの実績を踏まえ美術館として幅広い年齢層を対象に芸術として広い視野に基づいた様々な展覧会・プログラム・イベント企画が行われることを目指す。なお市民に親しまれ交流の場としても機能も充実させる。

○活動テーマや取り扱うジャンル

<「ものづくりのまち」の発信や技術の伝承>

- ・アトリアで「川口の匠」展という川口のものづくりをテーマにした企画展を開催したが、産業振興に寄与するような視点を美術館の核に据えても良いのではないか。
- ・伝統技術の継承が課題となっている状況を踏まえると、職人に対してリスペクトする地域性を生かし、「川口の匠」展のように職人や技術など、川口から発信すべき内容にスポットをあてるとよい。
- ・川口は「火のまち」というイメージがある。鉄を溶かし新しいものを作るという行為は命を生み出す聖なる儀式であり、どこか祝祭的な作業が日々行われていた土地である。生産現場の精神性といった要素を後世に伝えていけるような取り組みが必要である。
- ・溶断の体験ができるなど、「ものづくりのまち」ならではの技術を活かした活動を展開できる施設機能を備えるとよい。
- ・大型のプレス機など、美術特有の機材を備えた学校的な活動や機能があってもよいのではないか。

<横断的な美術ジャンルの展開>

- ・美術界全体の状況として、ジャンルを超えた作品が多くなっている。アプライスの創作活動、アトリアの作品公開、スキップシティの映像公開といった市内施設

の多彩なジャンルを横断するような活動を展開してはどうか。

<海外を意識した活動の展開>

- ・中国や東南アジアからの外国人が多いという地域特性を踏まえて、アジアに焦点を当てることも考えられる。その場合は、先進事例となる福岡アジア美術館とは異なる次元でとらえたアジアとの交流の様を伝える視点が必要。
- ・海外から作家を招聘しアーティスト・イン・レジデンスを行ってはどうか。川口らしく創作活動のための大型機材などを用意し、周辺地域と市民とが連携し、活動の痕跡を残していけば、他に無い特徴的な取り組みになるのではないか。
- ・海外とのネットワークを構築してはどうか。今後は東南アジア地域との連携は無視できなくなっている。
- ・上海では日本のてづくりに注目が集まっている。川口のものづくりの技術を、海外に発信してはどうか。

<その他>

- ・外部団体からの企画公募（東京都美術館の「都美セレクトショングループ展」のように、展覧会企画を公募し、審査により選抜されたグループが実施する展覧会）。

○コレクションの形成

- ・アトリアで発掘している新人作家の作品をコレクションしてはどうか。
- ・市内作家の収蔵。
- ・川口市立アートギャラリー・アトリアが既にある状況で、敢えて更なる美術施設が必要か、という疑問はある。が本格的な収蔵設備を持った美術館が必要なのであれば、従来型の在郷の作家作品収蔵というありがちなものではなく、より個人的でユニークな展示収蔵を目指すべきかと思われる。

○必要な機能

<基本的な施設機能>

- ・常設展示及び企画展示スペース。収蔵庫。創作実技・鑑賞のための講座室（付帯設備及び機材置き場を含む）。ワークショップ・人の交流スペース。映像を含みイベントの為の小ホール。レストラン・売店。

<野外展示場>

- ・市民等による寄託寄贈品を展示公開するための展示室や、現代美術の公開や創作ができる野外展示場があるとよい。
- ・「たたら祭り」との連携など、地域の祭りと連携しやすいよう、屋外シアターなどを備えると市民が立ち寄りやすいのではないか。

<シアター>

- ・スキップシティとの連携を想定し、映像作品を演示できる環境を備えるとよい。ミニシアターを設けると、人々が親しみやすい施設となるのではないか。

<その他>

- ・火器の取扱いや、大型機材の使用など、作家が創作活動をしやすい環境を備えてはどうか。作家にとって活動しやすい場であれば、地域の特徴になる。

○アトリアとの機能分担

- ・アトリアが現代のものを取り扱っているので、それとは異なる視点の美術を取り扱うことになろうか。

○その他

- ・ARTFACTORYのように、まち全体で作家をサポートできると、作家がより多く集まるのではないか。
- ・アトリアで展開しているアーティスト・イン・スクールは、子どもが芸術に触れる機会を提供するよい取り組みである。子どものころから芸術に触れることが重要である。公的施設や、公的な組織が展開することが重要である。

新たな美術館との連携・協力

- 美術館での事業展開に向けたアーティストや学校団体の紹介
 - ・作家を紹介するなど、企画提案することができる。
 - ・アプリアスの卒業生が全国の大学で教員を行っている。主要な美術系大学と連携し教育的アプローチや、技術の継承などの事業展開が可能ではないか。
- アートイベントの開催
 - ・ART ROUND EAST に加盟しており、質の高い芸術を提供するアートプロジェクトの展開にも協力できる。
- 空き屋活用等における連携
 - ・今後長い目で見ていくと、川口でも空き家問題が出てくると思う。そういった問題を、美術館と協力しながら、設計アトリエとして、色々な作家さんにつながりある立場として、問題解決できるような企画を行いたい。
- まちあるきツアーの開催
 - ・ツアーを軸とした美術連続講座の開催。

市内の美術活動発展に向けた意見

- 子どもの美術体験の充実
 - ・新しく出来る美術館は、見る人の裾を広げてほしいと思う。例えばサントリー美術館がやっている「こども美術館」や森美術館がやっている「ベビーカーでみられる時間帯」など、未就学児にも、又子育て中の親子で楽しめる美術館であってほしいと思う。
- 予算確保と学芸員の重要性
 - ・水戸市では水戸芸術館のオープン（1990年）にあたり、市の予算の1%を管理運営に充てるという取り組みを行った。川口市でも美術館をダイナミックに運営していくのであれば、予算確保を念頭に考える必要がある。アトリア職員の現状等を踏まえると、学芸員の厚遇を図ることで、継続性のある活動が可能となり、美術活動を通じた文化交流の促進につながる。
 - ・子ども向けの事業を展開するためには、対応できるスタッフを備える必要がある。
- 運営支援組織等の設置
 - ・美術館を運営する財団等を設置し予算や学芸員を確保することで、文化の継続性を保つ必要がある。
 - ・美術館建設と並行して有識者会議を設置し、運営方針を検討する必要がある。
 - ・10年の活動を経て、ようやくアトリアの認知度が向上してきた。これも、様々な人々とコミュニケーションによる効果と言える。庁内の様々な部署との連携により、より効果的な活動の展開を図るためにも、庁内部署を越えた運営支援体制が必要である。
- 芸術文化財団の設置
 - ・現状、市民の美術に対する関心が高いとは言えず、如何にして興味関心を持ってもらうかが最大の課題かと思われる。アトリアでは既に参加型のワークショップの活動が充実しているので、新美術館にはまた別の切り口でのアプローチが必要。川口=鋳物、植木といったステレオタイプのテーマに囚われず、川口という土地の持つ潜在力を顕在化させる様な取組みは必要かと。それには美術館とともに、芸術文化財団を設立し、人材と予算の確保が何より重要かと思われる。
- 既存団体との連携に関する提案
 - ・アートコア川口の連携・協力を検討してはどうか。基金を設けて運営資金にあてるなどしてはどうか。

<ul style="list-style-type: none"> ・川口鑄金工芸研究会と連携すると良いのではないか。 ・美術と地域産業の連携できれば、産業奨励という視点においても特徴的な取り組みとなる。
<p>その他</p> <p>○立地環境等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のアトリア及び芝生広場を一体化した敷地にするのも一案である。駅からのアプローチの便利さ・隣接する商業施設等により来客が期待できる。特に子供を遊ばせることができるスペースを併設することにより、市民に対し気軽に楽しく芸術に接する機会を作ることが出来る。 <p>○施設外観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々を惹きつける洗練された外観がよい。 <p>○運営方針に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理の経費削減を考慮して公益法人等による運営委託。長期的視野に基づき学芸員等専門人材の育成とノウハウの継承が大切である。地域・学校・ボランティアの連携による活動を広げていく。国内外の美術館・博物館との交流を積極的に行う。

③グループC 市民向けの活動を行う個人・団体

<p>川口市にふさわしい美術館のイメージ</p> <p>○施設像</p> <p><優れた作品に触れる施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場料を徴収しても、著名な作品を鑑賞する機械を提供する場であるとよい。 ・子どもたちがスキルを磨くきっかけを作るためにも、優れた作品との出会いを提供することも重要である。 <p><市民が気軽に発表できる施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・川口市民が気軽にグループ展や個展など開催できる美術館。 <p><多様な人々が気軽にアートに親しめる施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層も含めて幅広い世代が気軽に立ち寄る施設となるとよい。転入者が多い川口の特徴を踏まえると、多様な人々が興味を抱くような取り組みや、帰宅途中に立ち寄れる開館時間の設定などを検討するとよい。 ・心のゆとりを生み出すような取り組みを展開し、多様な人々がアートに触れるきっかけを提供できる施設となるとよい。 ・日常にアートがない市民も立ち寄りやすい施設がよい。 <p><独自性のある施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県立近代美術館や都内にも近いので、格調高い美術館よりも、少し奇抜で特色ある美術館を目指してはどうか。 <p><子どもがアートに親しむ施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃から美術に親しむ習慣を身につけるような場になるとよい。アトリアも開館当初は、そのような目標を掲げていたように思う。幼稚園児や小学生など、表現することが苦手になってきていると実感する。表現することの大切さを子どもだけでなく、大人にも学ぶ機会を提供するとよい。 <p>○取り扱うテーマ</p> <p><地域ゆかりの作家></p> <ul style="list-style-type: none"> ・川口ゆかりの作品を収集展示とともに、活動中の作家についてもサポートの意味も含めて、作品を展示してはどうか。 ・川口市出身の芸術家。かつての偉人達の作品をどのように管理し、(どの範囲で

集めるのかも課題) 紹介していくのか、また現代の芸術家の紹介やサポートをどうしていくのか。芸術家やアーティストの活動の幅もかわってきているのでその美術館を管理する人の知識の幅もかなりないといけないかもしれませんが。

- ・川口市に在籍する著名な作家や偉人、歴史を伝える。

<地域の歴史や文化の伝承>

- ・川口の財産である歴史的な部分（歴史博物館的なもの）（現在川口市には文化財センターがありますがかなり古い）や、モノづくり（過去や現在、未来の職人の仕事）をアトリアでも紹介されておりますが、その部分を新しい美術館で担うということも考えられます。現在アトリアは多様に展開していますが、「美術・アート」に特化してもらいたい。
- ・川口の文化財の利用や、植木の街、鋳物の街の特色を生かしたものとしたい。

<障害者アート>

- ・私のアトリエにも障害のある生徒がいるので、障害者の作品発表の機会が増えることを期待したい。

<子どもたちが主体的に活動する機会の提供>

- ・表現することの重要性を学ぶきっかけづくりとして、子どもたちが自ら表現でき、作品や人との出会いの場となるとよいのではないかな。
- ・小学生になると展覧会の企画やグッズ制作への意欲が非常に高い。子どもたちに活躍の機会を提供すると、自分たちの場として認識し、美術館に親しんでもらえるのではないかな。

○コレクションの形成

- ・川口にゆかりのある作家の作品の収集等を検討してほしい。

○施設整備

- ・利用者の規模に即した、快適な利用環境などを検討する必要がある。
- ・スムーズに搬出入できるトラックヤードや、自動調整可能な展示照明、絵画や造形教室が行えるスペース、彫刻の展示に適した空間を備えるとよい。
- ・美術館らしさを感じられる建物である必要があるのではないかな。
- ・通りすがりでも入りやすい雰囲気が必要である。
- ・入りやすく、魅力的な建物。
- ・カフェスペース。

○アトリアとの機能分担

- ・市民参加型の活動をアトリアで行い、多様な優れたアートに触れ、様々な気づきを得る場として美術館があるとよいのではないかな。多様なテーマの企画展を開催し、多くの人が訪れる機会を創出するとよい。

○他館との連携

- ・優れた作品を所蔵する美術館などとの連携し、レベルの高い作品を展示するとよい。他館との連携や交流の中から、川口らしさが生まれてくるのではないかな。
- ・市民が名品に触れる機会を提供するため、近隣の美術館との連携が重要である。

○その他

- ・美術に親しむきっかけを与える場と、制作した作品について責任を持って発信し芸術へと昇華することを伝える場との両輪があるとよいのではないかな。それらのバランスをとりながら企画するための高いキュレーション力が重要である。

新たな美術館との連携・協力

○ワークショップ等の企画協力

- ・子ども達をつれて歴史的なことを楽しく学ぶための workshop や、作品の鑑賞ツアーへ子ども達を連れていったり、楽しく鑑賞するための workshop 企画への協力、対話式鑑賞法などへのアプローチに協力が可能。

<p>○子どもたちによる企画提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがグッズや企画をプロデュース。
<p>市内の美術活動発展に向けた意見</p> <p>○公募展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年層の美術に対する興味や関心を引き出すためにも、中高生を対象とした選抜展や、美術団体の支部展を開催し、創作レベルの向上と美術館の周知を図るとよい。 一部の中学校を除き、市内では消極的な意識で活動している美術部が多い。子どもたちのポテンシャルを高め、美術活動を活性化させためにも、子どもから大人までが対象となる公募展を開催し、入選作品を美術館で展示してはどうか。 特に子どもたちはファッションやアニメーションなど、多様なジャンルに興味を広がり、その分野の大人も参加することで、子どもたちの目標ができ、ポテンシャルが上がるのではないか。 <p>○自由な表現活動が行える展示空間の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 釘を打ったり、壁面にペイントしたり、自由に表現できる環境を設けると、子どもたちの創作活動がより幅広く発表できるのではないか。また、飲食や制作物が販売できるなど、利用上の規制を緩和することで、美術活動が活性化できるのではないか。 <p>○文化活動に関する情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の美術活動の情報サイトを作る。 <p>○地域連携の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 川口駅から美術館までの流れを作る。商店街は特に協力頂き市一体となって客の導引をはかる。
<p>その他</p> <p>○アトリアの活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> アートギャラリー・アトリアのミッションは「新しい価値観に出会う場」であるのかと思う。市民に身近であり、気軽に参加できる体験（ワークショップや、講座など）を通して、美術やアートに触れる機会をつくっておられるかとも思う。アトリアが今後も継続されていくのであれば、アトリアにそのミッションにもっと力を入れてもらうことが望ましいかと。 <p>○運営支援組織等</p> <ul style="list-style-type: none"> 優れた企画展を開催していくためには館長の存在が重要である。また、美術館が完成した後も、運営について検討する場が必要である。 <p>○立地環境等</p> <ul style="list-style-type: none"> 安行のグリーンセンターなど緑豊かな場所に整備して、屋外展示してはどうか。また、旧田中邸の活用も検討するとよいのではないか。 <p>○情報発信の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような活動を行うにしても、集客につながる情報発信が重要である。 新聞やテレビのほか、WEB サイトや SNS での情報発信など、多様なツールを活用すること。そのためには、専門の部署を設ける必要がある。 美術館としてしっかりとしたコンセプトを持ち、情報発信する必要がある。 <p>○障害者アートの現状と工房集での取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 工房集では、一般就労の機会が少ない障害者たちの表現活動を仕事として社会に向けて発信するという発想のもと、アートの取り組みを展開している。ギャラ

リーやカフェ、ショップなど 2002 年にスタートした取り組みを通して、美術関係者などとのつながりが広がっている。

- ・埼玉県では障害者アートの振興策に取り組んでおり、その一環として開催される「埼玉県障害者アートフェスティバル」では実行委員として携わっている。また、(厚生労働省が進める障害者芸術文化活動普及支援事業における) 全国の都道府県ごとに設置が進められている障害者芸術文化活動支援センターとして、障害者アートの振興にも寄与している。
- *アトリアの新鋭作家展の応募要項に「作家自身が展示できること」という内容があるため、自力で展示できない障害者にとっては参加できない状況にある。ダイバーシティが注目されているが、アートの世界においてもまだまだ浸透していないように感じる。

○その他

- ・市内にある施設の有効な活用方法をしっかり再構築する必要がある (アトリア・スキップシティ・各公民館など)

(3) 調査表

市内美術活動団体様用

■ 川口市の文化芸術活動に関する調査

貴団体の代表の方にお伺いします。

貴団体の基礎的事項についてお伺いします

問1 貴団体名をご記入ください。なお、集計の際は団体名を伏せて、統計的に分析いたします。

名称： _____

問2 貴団体の主な創作分野をお教えてください。(いくつでも)

1. 日本画	2. 洋画	3. 彫塑	4. 工芸	5. 書
6. 写真	7. その他(具体的に _____)			

問3 貴団体の参加者数をお教えてください。(〇は1つまで)

_____人(2018年6月現在)

問4 貴団体の主な活動地域はどちらですか。(〇は1つまで)

1. 中央地区	2. 横曽根地区	3. 青木地区	4. 南平地区	5. 新郷地区
6. 神根地区	7. 芝地区	8. 安行地区	9. 戸塚地区	10. 鳩ヶ谷地区

【各地区の町名】

	町名
1. 中央	本町1～4丁目、栄町1～3丁目、金山町、舟戸町、幸町1～3丁目、川口1～3丁目
2. 横曽根	川口4～6丁目、飯塚1～4丁目、西川口1～6丁目、仲町、飯原町、原町、宮町、南町1～2丁目、緑町、荒川町、並木元町、並木1～4丁目
3. 青木	前川町3～4丁目、青木1～5丁目、中青木1～5丁目、西青木1～5丁目、上青木西1～5丁目、上青木1～6丁目、南前川1～2丁目、前上町、前川1～4丁目、本前川1～3丁目
4. 南平	朝日1～6丁目、末広1～3丁目、新井町、元郷1～6丁目、弥平1～4丁目、東領家1～5丁目、領家1～5丁目、河原町
5. 新郷	大字赤井、大字東本郷、大字蓮沼、大字前野宿、大字東貝塚、大字大竹、大字峯、大字新堀、大字榎松、赤井1～4丁目、江戸1～3丁目、江戸袋1～2丁目、本蓮1～4丁目、東本郷1～2丁目、新堀町、榎松1～3丁目
6. 神根	大字安行領根岸、大字安行領在家、大字道合、大字神戸、大字木曾呂、大字東内野、大字源左衛門新田、大字石神、大字赤芝新田、大字西新井宿、大字新井宿、大字赤山、在家町、北園町の一部、柳根町の一部、柳崎4丁目の一部、柳崎5丁目の一部
7. 芝	大字芝、大字伊刈、大字小谷場、芝中田1～2丁目、芝新町、芝下1～3丁目、芝1～5丁目、芝樋ノ爪1～2丁目、芝高木1～2丁目、芝宮根町、芝東町、芝富士1～2丁目、芝園町、芝塚原1～2丁目、芝西1～2丁目、北園町の一部、柳根町の一部、柳崎1～3丁目、柳崎4丁目の一部、柳崎5丁目の一部
8. 安行	大字安行原、大字安行領家、大字安行慈林、大字安行、大字安行吉岡、大字安行藤八、大字安行吉蔵、大字安行北谷、大字安行小山、大字安行西立野、安行出羽1～5丁目
9. 戸塚	大字西立野、大字長蔵新田、大字久左衛門新田、大字藤兵衛新田、大字行衛、大字差間、東川口1～6丁目、北原台1～3丁目、戸塚1～6丁目、戸塚鉄町、戸塚境町、戸塚東1～4丁目、差間1～3丁目、長蔵1～3丁目、戸塚南1～5丁目
10. 鳩ヶ谷	坂下町1～4丁目、桜町1～6丁目、大字里、大字辻、鳩ヶ谷本町1～4丁目、大字前田、鳩ヶ谷緑町1～2丁目、南鳩ヶ谷1～8丁目、八幡木1～3丁目、三ツ和1～3丁目

貴団体の作品発表の状況についてお伺いします

問5 貴団体の主な作品発表の場をお教えてください。(〇は2つまで)

1. アートギャラリー・アトリア
2. 川口総合文化センター・リリア
3. 公民館等
4. 市外の美術館 (主な施設の名称)
5. 市外の市民ギャラリーなど公共の展示スペース
(主な施設の名称)
6. ホームページやSNSなど、インターネットを活用
7. その他 (具体的に)

問6 貴団体の作品発表の頻度をお教えてください。(〇は1つまで)

1. 年に1回程度
2. 年に2回以上
3. その他 (具体的に)

貴団体の取り組みについてお伺いします

問7 他の団体等との連携・協力の有無についてお教えてください。(〇は1つまで)

⇒市内、市外の団体等と連携・協力している場合は、問8もご回答ください。

1. 文化芸術団体等と連携・協力している (主な団体名)
2. 文化芸術以外の団体等と連携・協力している (主な団体名)
3. 特に連携・協力はしていない

問8 問7で連携・協力していると回答された団体に伺います。

具体的な連携・協力内容をご記入ください。

回答例：他の美術団体と作品の協働制作を行っている。
学校団体と連携し、ワークショップを開催している

現在の活動における課題についてお伺いします

問9 市内で美術活動を行う上での課題について、ご記入ください。

以下は、グループインタビューでお伺いする設問です。

川口市の美術や美術館についてお伺いします。

問10 川口市にふさわしい美術館とはどのようなものと考えますか。

具体的なイメージを、ご記入ください。

問11 文化芸術振興のために、川口市の新たな美術館とどのような連携・協力が可能ですか。

具体的な取り組みイメージ等を、ご記入ください。

問12 市内の美術活動をさらに発展させるため、ご意見等がございましたら、ご記入ください。